

第22回 生物学会総会記録

第1日 5月26日(土)

於 甲南女子大学

総会第1日は晴天に恵まれ、大阪湾を眼下に見おろす甲南女子大学で、参加者104名を集めて行なわれた。

福田政次郎会長、県教委広幸乙彦主事のあいさつのもと、恒例の森・三木・紅谷生物研究奨励金が次の3氏に授与された。

杉田隆三氏(加古川東高)植物生態の研究。

細見彬文氏(育英高)ムラサキイガイを中心とする動物生態の研究。

谷口博氏(妙法寺小)生物(理科)教育。

次いで東正雄(甲陽高)、千速鉄治(夙川学院高)、永井憲之(市西宮東高)の3氏が議長団に選ばれ議事にはいった。その経過は次のとおりである。()内は説明あるいは提案者。

1. 昭和42年度会計報告(平畑政幸氏)
2. 監査報告(出水川則夫氏)
3. 役員改選について(渋谷久雄氏)

福田先生が任期1年を残して会長を辞退されたので、現副会長・北条高等学校長の多胡潔先生を会長にという理事会原案が提出された。これに対して、会長を高等学校長に限るという規約のもとの原案ならば反対であるという意見が出された。けっきょくは原案に異議の声なく承認されたものの、会長問題は生物学会の性格や運営とからめて、今後解決してゆかねばならない重要な課題であるように思われた。福田前会長、多胡新会長のあいさつのもと、議事はさらに続行された。

4. 昭和43年度行事計画

(1) 次期総会の件

但馬支部が立候補する旨の提案と説明が、村岡高教頭の山本茂信氏からなされ、満場一致で可決された。期日は5月下旬、旺日は参加者の意見(アンケート)によって決定することである。

(2) 夏期研修行事の件

魚崎中藤本義昭氏から、8月中旬に戸倉・音水方面で採集を行なう旨の説明があった。これでおもな議事は終了し、その他のこととして長田高安房明氏から、カリキュラム研究会を発足させたいという提案、明石高渋谷氏から福田前会長に、新会長の名で感謝状を贈りたい旨の提案があり、それぞれ拍手決定のあと多胡会長の手から福田前会長に感謝状が手渡された。

10分間の小休憩の後、会員研究発表にはいった。発表者と内容は次のとおり。(発表順)

杉田隆三氏 加古川地方の濁水期の溜池沿岸に見られる植物群落について。

前田米太郎氏(長田高)神戸で発見したキイロシヨウジョウバエの自然突然変異蛹状翅—uex—の遺伝子分析
佐藤茂樹氏(滝川高)郷土の生物進化史と生きている化石。

1時間の昼食・休憩のあと、午後の部は杉山幸丸先生(京都大学)の「霊長類の社会構造」と題する講演で始められた。自然人類学についての第1線の知識は、われわれを大いに啓蒙させ、チンパンジーの声帯模写(?)を交えての熱演は聞かざる者に感銘を与えた。

続いて2手に分かれ、分科会が行なわれた。

第1分科会 県立自然科学博物館の設立について(藤本義昭、細見彬文氏)

第2分科会 ビデオコーダーによる新しい視聴覚教育(荻合高渋谷竜二氏ら)

以上で第1日の行事は全部終了した。

第2日 5月27日(日)

於 阪神パーク 神戸大学医学部

朝からあいにくの雨で、参加者が減るのではないかと心配されたが定刻の9時半には会場の阪神パーク前に多数の参加者が集まり、関係の者一同胸をなでおろす。

園内映写館での講演会、最初は赤木先生(同パーク)のレオポンについての講話で、世界にも類のない貴重なスライドを見せていただき興味が尽きなかった。続いて筒井嘉隆先生(芦屋大)の「減ってゆく動物たち」と題する講演は、自然の保護に力を入れなければならないという、もっともな主旨のものであった。

昼食のあと、第二会場の神戸大学医学部への待ち時間を利用して園内見学を行なったが、断続する雨の合間をぬって、レオポンの檻の前でカメラを構える人が多く見受けられた。

参加者が思いのほか多かったのと、手違いで小さなバスが来てしまったので出発が少し混乱したが、バスに乗れなかった人はハイヤーに分乗して神戸大学へ向う。医学部の教室へは、午後の部だけの参加者が多数つめかけていて、はじめの予定40~50名がその倍ほどになり、不本意ながら2班に分かれて見学させてもらうことになる。第二解剖の武田教授や福田先生のご命息の指導で木のつっかけにはきかえ、おそろおそろ実習場にはいる。初めて死体解剖を見学する人も多く、卒倒者が出るのではないかと気遣われたがき憂に終った。人数が多く、時間をかけてじゅうぶんに見学することができなかったのが残念であった。午後4時30分、すべての予定が終了して、2日間にわたった総会の幕を大過なく閉じることができた。(仁王春樹)